

日時 平成 25 年 10 月 3 日（木） 午後 3 時～午後 4 時 15 分

場所 井上蒲鉾店 3F イベントスペース

議事

1. 確認事項

【事務局】 情報公開、議事録の確認だが、前回同様、今回配付した資料は、全て情報公開の対象としたい。

また、本日の会議の議事録についても原則公開になるので、作成次第、委員の皆さんに確認の上公開するが、発言者の氏名は非公開とする。

次に、第 8 回専門部会の議事録(案)については、事前に委員の皆さんに確認して頂いており、今回の内容をもって確定としたい。

【部会長】 事務局から議事録の最終確認及び情報公開について確認があったが、よろしいか。

【委員一同】 異議なし。

2. 議題

(1) 平成 25 年度社会実験の選定結果について

(事務局から社会実験の選定結果についての説明)

【事務局】 国土交通省の社会実験の選定結果については、既に委員の皆さんに通知しておりである。9 月 30 日に国土交通省の社会実験制度の選定可否について発表があり、国土交通省からも連絡を頂いた。今回、社会実験制度に全国から 23 件応募があり、その中で 9 件が選定されたが、当委員会が申請した、「鎌倉の特異日における公共交通利用促進に向けた社会実験」は、残念ながら選定されなかった。委員の皆さんから協力を頂いた中で、このような結果になってしまい、誠に申し訳ない。

なお、社会実験制度は国土交通省道路局が担当しているのだが、道路局の立場では、今回の鎌倉市の申請が「交通渋滞の解消」ではなく、「公共交通の転換策」ということで、あくまでも地域の利便性の向上であったため、採択しづらかったようである。当初の社会実験案は、「世界遺産手形」が第一弾で、第二弾が循環バスだった。一枚の手形で観光して頂くということであれば、車から鉄道で来てもらい渋滞解消に繋がるため、選定の条件としては整っていたと思う。やはり道路局としては「渋滞解消」に主眼が置かれ、今回の申請では選定が厳しかったようだ。

今回の社会実験の費用は、鎌倉市の予算ではなく、国土交通省の予算確保によって実現を目指していたものであり、この結果、殆どの実験が困難な状況である。ただし、市のホームページを活用した交通渋滞情報や、過去の渋滞状況を表示する「総合交通観光情報」の提供及び渋滞情報の提供により行動の変化があったことを調査する「駐車場利用者アンケート」な

どは実施可能である。

本日は今後の部会の進め方や、「総合交通観光情報」の提供及び「駐車場利用者アンケート」の内容について確認して頂き、意見を頂ければと思っている。

【部会長】資料1の3ページが今まで我々が論議してきた内容である。今回の結果を受け、この内容がどの様になるのか具体的に教えてほしい。

【事務局】まず、Aの「対向車線を用いた逆方向への循環バスの運行」については、国土交通省の予算を確保して実験を行うことを考えていたので、現時点でこの実験については実施することができない。次に、Bの「総合交通観光情報の提供」については、観光情報のホームページなどとリンクしながら、交通情報や過去の渋滞状況などを提供する実験で、来訪者の行動変化を促すものなので、この実験は実施可能である。また、Cの「市民への呼びかけ」についても、広報などで特異日を知らせ、自動車利用を控えて貰うものなので、これも実施可能である。

【部会長】この件について、委員の皆さんから意見を伺いたい。

【●●委員】これまで検討してきた社会実験は、国土交通省の社会実験制度を活用しないと実施できないのか。また、全て国の補助なのか。市の予算で実施できないのか。

【事務局】社会実験全体では7,661千円の予算申請をした。これは全額、国土交通省の費用で賄う。●●委員の指摘は、議会でも一般質問があり、この結果を受けて議長、副議長、建設常任委員会の委員長と副委員長、関係議員の方々に説明をした。その中で、「社会実験を実施して貰いたい」「折角ここまで積み上げたものなので、市の負担で何とかできないものか」等という要請を受けた。

なお、先程意見のあった市の負担での対応については、鎌倉市は財政難で、事務局としてはこの実験案を何とか来年度以降に複合的に実施できればと思っている。国土交通省の社会実験制度には、同じ内容では申請できないので、違う実験を組み合わせながらこの社会実験案を何とか実施に向けて進めていきたい。

【●●委員】国土交通省から、選定に漏れた理由をもう少し具体的に聞ければ、次のステップを踏むのに参考になる。これと全く同じものでは申請できないという説明があったが、他の選定された社会実験を見ると、あまり鎌倉市と変わってないように見える。市議会でも素晴らしいと言っているのであれば、更に検討するような材料を得て、新しい事を盛り込んで申請した方が良い。その辺の理由はまだ明確にはなっていないのか。

【事務局】私どもも、高い確率で選定されると思っていた。国土交通省から頂いた電話の中では、「道路局としては、地域の利便性の向上策よりも、渋滞解消を考えて頂いた方が選定されやすかった」とのことであった。

【●●委員】選定結果が電話連絡のみとはいかがなものか。良い説明であれば選定されるという感じがする。その辺は少し問題であると感じる。

【●●委員】我々は利便性の改善は渋滞の解消にも繋がると考えて、今回の計画を立てた。もし国の補助金が貰えないとしても、この実験が必要だと考えるのであれば、市が負担してでもやるべきである。この社会実験が必要だから今まで議論をしてきた訳であり、国の補助金が下りないからと言って「やめましょう」という、そういう簡単なものではない。議員が是非実施して欲しいと言って頂いているのであれば、尚更実施できるよう進めて頂きたい。

【事務局】私どもの力不足で大変申し訳ない。先程言ったように、議員の方々からは非常に良い案であるとの評価を頂いている。「何とか市の予算でこれをできないか」という話もあるが、鎌倉市は財政難で、補正予算も組むことも難しい状況である。この実験案については、決して埋もれることのないように、渋滞解消施策と循環バスを組み合わせて考えていきたい。また、実験費用が掛かるのであれば、当然理事者に報告をして、足りない部分は市の予算で補うような仕組みで考えていきたい。現時点では「市の予算で実施できる」という回答はできないが、できるだけ努力したい。

【●●委員】来年は消費税も上がる事が決まっており、その分、市の税収も増加することも酌んで頂きたい。

【●●委員】今回の社会実験の不選定通知を頂いた時にすごく残念に思った。やはり鎌倉は他の地域とは違い観光地という特別な土地である。道路が狭い中に人口が17万人もいて、観光客が約2,000万人位集まってくる中で、市の予算で何とか切り詰めて7,661千円よりも少ない金額で実験ができるように、募金や市民の協力などの手助けの道も考えてみてはいかがか。

【●●委員】その程度の予算があれば実施できるかと感じた。●●委員が言われたように、応援して頂くのも良い。消費税の話もあったが、これから行政としては税収が増えそうなので、この計画をどうしたらできるのかを、あきらめないで知恵を出す必要がある。

【●●委員】私もそう思う。鎌倉には日本で一番資産家がいるという話もある。私の勝手な考えだが、湘南鎌倉総合病院の患者の一部はこの交通を利用して病院にやってくると思うので、病院側は少し寄付しても良いと考えるのではないか。

【●●委員】仮に国土交通省の社会実験に採択された場合、予算申請している7,661千円は、いつ頃付く予定だったのか。工程表を見ると、準備には今月位から入っているがそこにお金を使うのか。それとも実際に来年の1月に使うつもりだったのか。仮に7,661千円であれば、市の予算で実施しても大した額ではないのではないかと。先行して実施するという姿勢を見せれば、金銭的なものは後からついてくる。要は、この実験を通して交通政策を一生懸命やるという腹の持ち方である。これを一年延ばすと、一生懸命やろうと思ったことが薄れてしまう。予算については色々と方法は考えられると思う。

【事務局】その点については、私どもでもできるだけ努力するが、今のところ予算の約束はできない。次回の第5回検討委員会は市長選の後に行う。その時に市長が新たに再選された場合、この検討委員会で挨拶を考えている。専門部会として、その点を要望して頂けると、事務局として更に取り組んでいくことができる。補正予算が活用できるかについては理事者を

含めて財政当局等と相談をしていくが、財政難で認められない可能性が高いことは、理解して頂きたい。

【●●委員】現時点で、予算の問題で実施へのゴーサインが出ないと、来年1月の実施には既に手続き上間に合わない。路線バスの手続きは、一般的に申請してから実施するまでに3ヶ月掛かるため、若干急いでもやはり1月の実施はギリギリのスケジュールと考える。特異日は必ずしも1月の連休明けだけではない。申請期間が概ね3~4ヶ月掛かるので、年内にある程度結論が出れば来年のゴールデンウィークの実施は不可能ではないと思う。仮に補正予算や来年度の予算で行うということも含め、なるべく早くやりたいということであれば、1月にこだわることなく、来年のゴールデンウィークや、秋の3連休も考えられる。なお、先程の費用の問題だが、事前の申請には費用は掛からず、実験当日のオペレーションの費用が殆どだと考えている。

【部会長】今のはかなりクリティカルな話だと思う。仮に市の予算で実施できるとして、1月11日から19日の実施は、今日の時点でも間に合わないということか。

【●●委員】申請には3ヶ月程度掛かるので、1月の実施となると役所は年末年始が休みになるので、認可を年内もしくは年明け早々に貰わないとできないとすると、9月の下旬が本来の申請のタイムリミットになる。

例えば、社会実験に選定されていて、社会実験を推進する協議会の中に関係部署も参画しているので、若干のスピードアップはお願いできたとして、今回が多分ギリギリのスケジュールだと考えている。恐らく繰り上げて、ひと月短くすることができるかどうかだと思う。それでもやはり今月中というのが、準備のタイムリミットである。その段階で手続きや運賃問題等の意見調整を済ませておかないと難しい。道路の問題については既に警察の方と管理者の方に現地確認により調整済みという認識を持っているが、運賃の話や実際の手続きの話になると、特定路線だけを優先する訳にはいかず、申請の順番とおりに処理しなければならない。

【部会長】1月の特異日は、いつまでか。

【事務局】前半のみで、後半になると特異日ではない。

【部会長】例えば、今月末に検討委員会の開催を予定しているが、そこで実施可能との意思決定が行なわれたとしても、1月の実施は厳しいのか。

【●●委員】厳しいと思う。

【部会長】そうすると、一方で市には「年度」という区切りが出てくる。

【●●委員】仮に1月の実施は困難で、来年の5月に実施となっても、12月に補正を組んでおいて、来年度に使う予算としておけばできない訳ではない。5月に実施できないと秋になってしまう。実施する姿勢を見せておかないと国土交通省には申請できない。逆に、実験の手続きが3ヶ月掛かるなら、3ヶ月前には方向性だけは出しておかないといけない。来年度の

予算で実施するとなれば、実施は完全に秋以降になってしまう。

【部会長】 7,661千円の内容を少し削って、当初5日間実施する予定だったものを3日や2日にすると、補正予算が取りやすくなるということはないのか。

【事務局】 これは予算取りの関係で、既に9月議会が終わるので、次は12月議会での計上になる。12月議会で補正が認められれば良いが、それから準備すると当然1月の実験は困難である。先程●●委員が述べたような繰り越しが非常に難しい状況であり、当然来年度予算に組み込むので実施は早くても秋の特異日になってしまう。

【●●委員】 予算を決定してから計画を提出するのか。それとも計画があって、それを予算委員会に諮って予算化するのか。実行するにあたり、計画は立てたが予算がつかないのでは何もない。

【事務局】 現在は来年度予算を固めている状況であり、この社会実験の予算は組み込んでいない。そのため、平成26年度には実施できない状況であり、補正予算で対応するしかない。また、同じような内容で来年度の国土交通省の社会実験に応募するのではなく、内容の異なる実験と組み合わせて応募することで、循環バスの実験が実施できると考える。

【部会長】 Aの循環バスの実験を今年度実施することは、現実的に難しいのか。

【●●委員】 来年度に実施できるよう努力してもらわないと、折角議論してきたことが活かされなくなってしまう。

【●●委員】 プラスアルファの実験内容を組み合わせて、再度国へ申請するのであれば、もう一つの施策を考えなければいけないということか。

【部会長】 道路局の予算で実施しようとするれば、そのようになる。

【●●委員】 当専門部会として、もう一度申請することに関して、皆さんはいかがか。

【部会長】 Aの循環バスの実験にこだわるのであれば、別の渋滞解消策を直接取り扱うようなアイデアが必要である。または、今回の内容だけで実施するのであれば、道路局ではない別の省庁の予算を検討する方法がある。来年度にどのような社会実験の枠組みがあるかは、調査が必要である。

【●●委員】 プラスアルファの考えとしては、当初計画していた環境手形の拡大版がある。来年4月に消費税増税を控えており、手形を作り変えるのは大変だということで、今回は作成を控えたという話を聞いている。消費税改定後の実施であれば、再度検討することは可能だと思う。

【部会長】 来年度はそうするとして、今年度は、Aの循環バスを実施しなくても、Bの総合交通観光情報の提供とCの市民への呼びかけは、実施した方が良いか。

【●●委員】 もし来年度以降、Aの循環バスと新しいアイデアと組み合わせて実施する場合に

も、このような方法で情報提供するという周知が進んでいれば、より実験の効果が出ると思う。あるいは、新しい実験の内容をPRすることでその効果を高めることは不可能ではないと思う。

【部会長】他の方の意見はいかがか。

【●●委員】実施したら良いと思う。

【部会長】折角これまで検討してきたので、BとCについては実施の方向とする。では次に、BとCの具体的な方法について議論したい。

(2) 総合交通観光情報の提供及び駐車場利用者アンケート等について

(事務局から資料の説明)

【●●委員】団体バスについて、何か試みはあったのか。

【事務局】今回の議会でも「渋滞の原因は観光バスではないか」という問いがあった。特に路上で乗降させることが渋滞の原因になっているので、予約をする仕組みができないかと問いがあった。事務局としては、予約をして駐車場に入ることが必要ではないかと考えている。既に予約可能な駐車場もあるので、改めて詳細を確認し、観光業者やバス事業者には鎌倉に来る場合は、なるべく予約して頂くことをお願いしようと思っている。

【●●委員】例えば、八幡宮などの大きい社寺ではどうするのか。また、大仏周辺は民間駐車場が殆どである。

【●●委員】事業者の感覚からすると大仏周辺が一番厄介である。ただでさえ道路が狭いところに、駐車場にも入れずに路上にバスを止められてしまう。

【●●委員】大仏のすぐ前は出入りできるが、それでも道路は混んでいる。

【●●委員】修学旅行シーズンが特に厄介である。

【部会長】予約制については、今後検討されるということで良いか。

【事務局】実施が可能な場合には報告する。

【●●委員】観光バスの路上での乗降の問題、駐車場の予約制の検討などは個別に担当課が行うしかない。

【部会長】10月31日の検討委員会では、今年度の実施内容を議題にすることで良いか。逆方向の循環バスについては、来年度どのように実施するのか選択肢は色々ありそうなので検討して頂きたい。仮に検討委員会までに、何か実施の可能性がある施策があれば、専門部会から検討委員会へ報告したい。現時点では、施策の選択肢が幾つかありそうだとすることが結論である。

よろしければ今日の議論は終了するがいかがか。

【●●委員】 Aの循環バスについては、市長の再選に関わらず、実験をきちんと実施するということを示した方が良い。

【●●委員】 市民委員は、来年3月で任期が終わるのか。

【事務局】 来年の5月までである。

【●●委員】 先日の9月の3連休は、中日が混んでいたが、連休の最後の日は混んでいなかった。

【部会長】 まだ我々の役割は大きい。

3. その他

【事務局】 第5回の検討委員会は、10月31日（木曜日）の午後3時から、市役所第3分庁舎2階の災害対策本部室で開催する予定である。市長が再選されればその場で話をされると思う。開催内容については、改めて通知する。

【部会長】 委員会までに動きがあれば各委員に通知して欲しい。

【事務局】 今回は、資料1の2ページの実験スケジュールに沿って進めさせて頂いた。今後、専門部会で意見を頂き、スケジュールを修正したい。

【部会長】 次回の検討委員会では、今年度の内容を議題の中心としたい。よろしければ本日はこれで終了する。

以上